

インターネットによる、地域の活性化に向けて

曾根 秀昭 / 東北大学 / 社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター 分野担当理事 (地域・非営利)



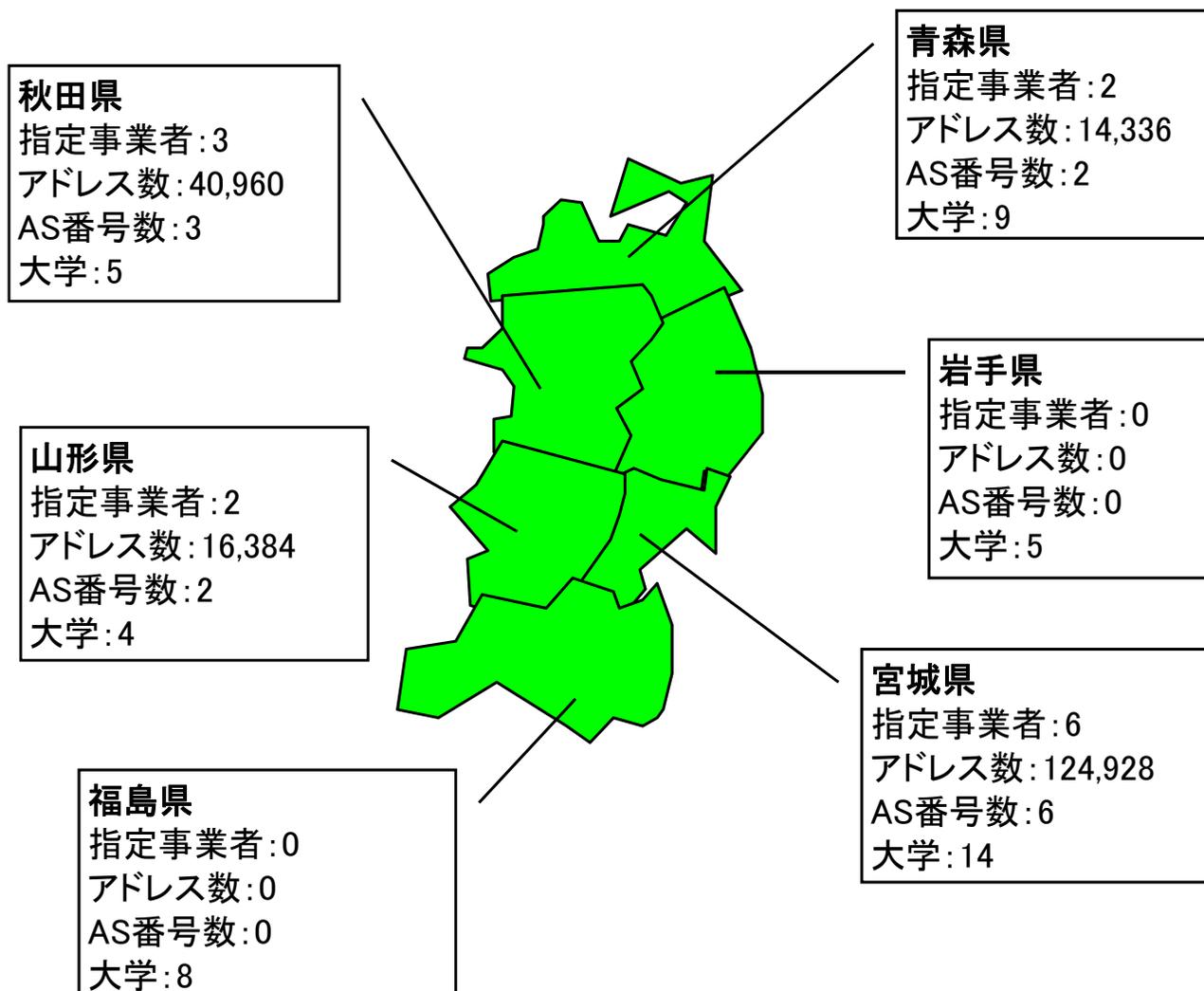
社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2009 Japan Network Information Center

地域情報化格差とJPNIC

- ・ **インターネット整備・利活用の地域間格差**
 - “地域間デジタルデバイド”の問題
 - インターネット環境の整備 + 活用方法の普及
- ・ **IW2008: 「成功事例にみる地域情報化の核づくり」**
 - 状況や手法は各地で様々なので一般的な解法がない
 - 整備や活用をリードできるエキスパート, キーパーソン
- ・ **地域情報基盤整備の推進の支援**
 - JPNICの公益事業の一つ
 - 会員向けだけでなく, インターネット普及の公益的な役割
 - 地域外からの支援により“悪循環”を絶つお手伝いへ

インターネット資源データでみる東北6県の現況

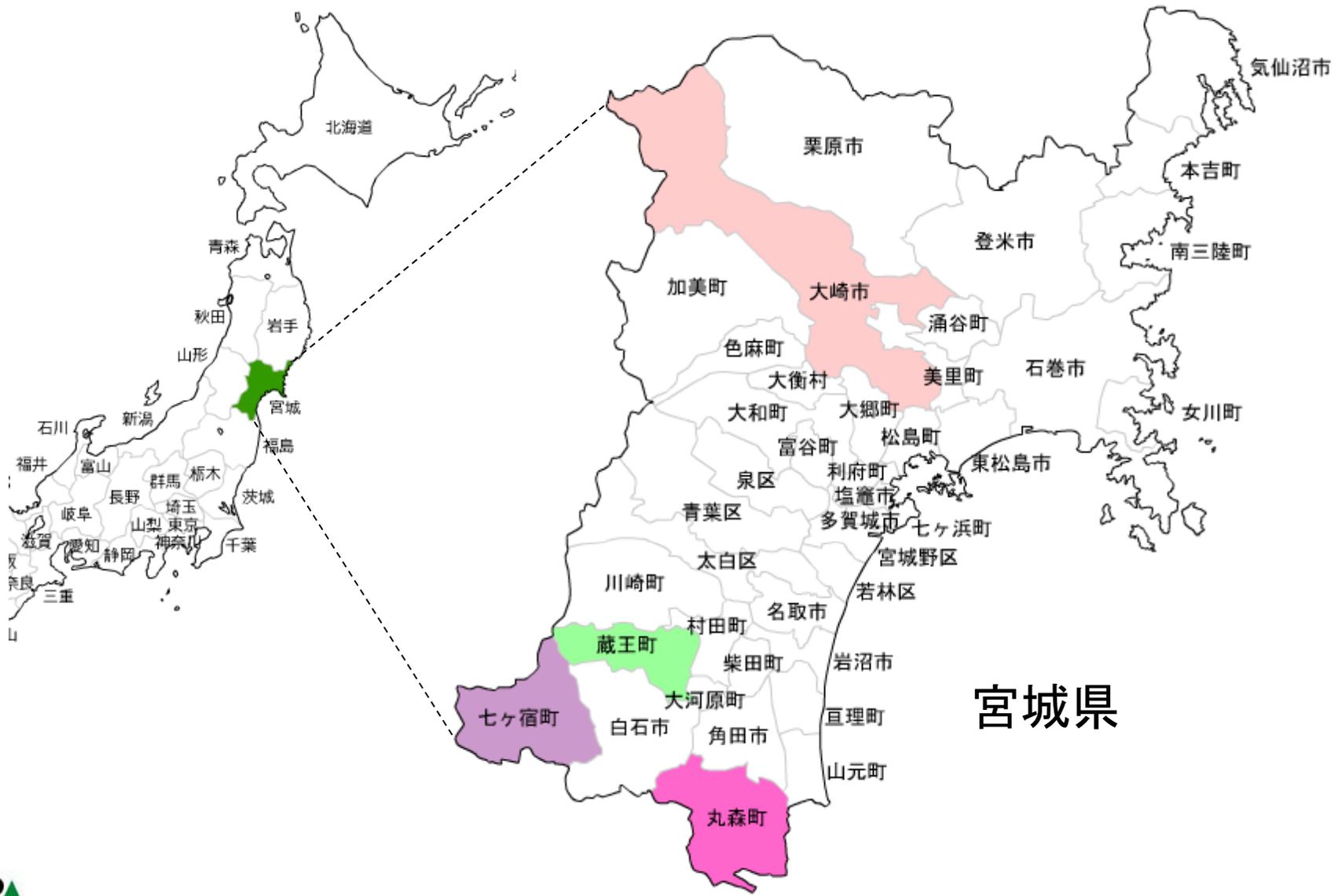


JPNICによる地域情報基盤整備の推進の支援

- ・ **「地域情報基盤整備におけるインターネット利活用促進への貢献と関係組織、機関等との連携」**
 - － 21年度事業計画
 - － ブロードバンド整備に向けて地域情報化計画策定する自治体への支援(アドバイス, 検討参画)
 - － 地域のデジタル・ディバイド解消に寄与
- ・ **「地域情報基盤整備推進」への支援**
 - － 自治体の協議会等へのオブザーバ参加の試行
- ・ **「ユビキタスタウン構想推進事業」への支援**
 - － 地域情報化計画への支援: 利活用技術のアドバイス
 - － 調達計画への支援 (計画検討へのアドバイス)から着手

地域情報化計画への支援の状況

- ・ 自治体の協議会等へのオブザーバ参加
 - 秋田県上小阿仁村, 秋田県金山町など
- ・ 地域情報化計画への支援
 - これまでに, 宮城県内の4自治体へ
 - JPNIC事務局の3名, 理事1名で担当
 - 関係省庁・地域との連携
 - 自治体の基盤整備計画の検討へのアドバイスから着手
 - その後, 整備基盤の活用, 今後の普及促進, 運営の検討支援への展開



宮城県



宮城県大崎市

人口: 137,892人(46,678世帯)

宮城県北西部に位置する。
ササニシキ・ひとめぼれに代表される銘柄米の発祥の地。稲作を中心に農業がきわめて盛んである。

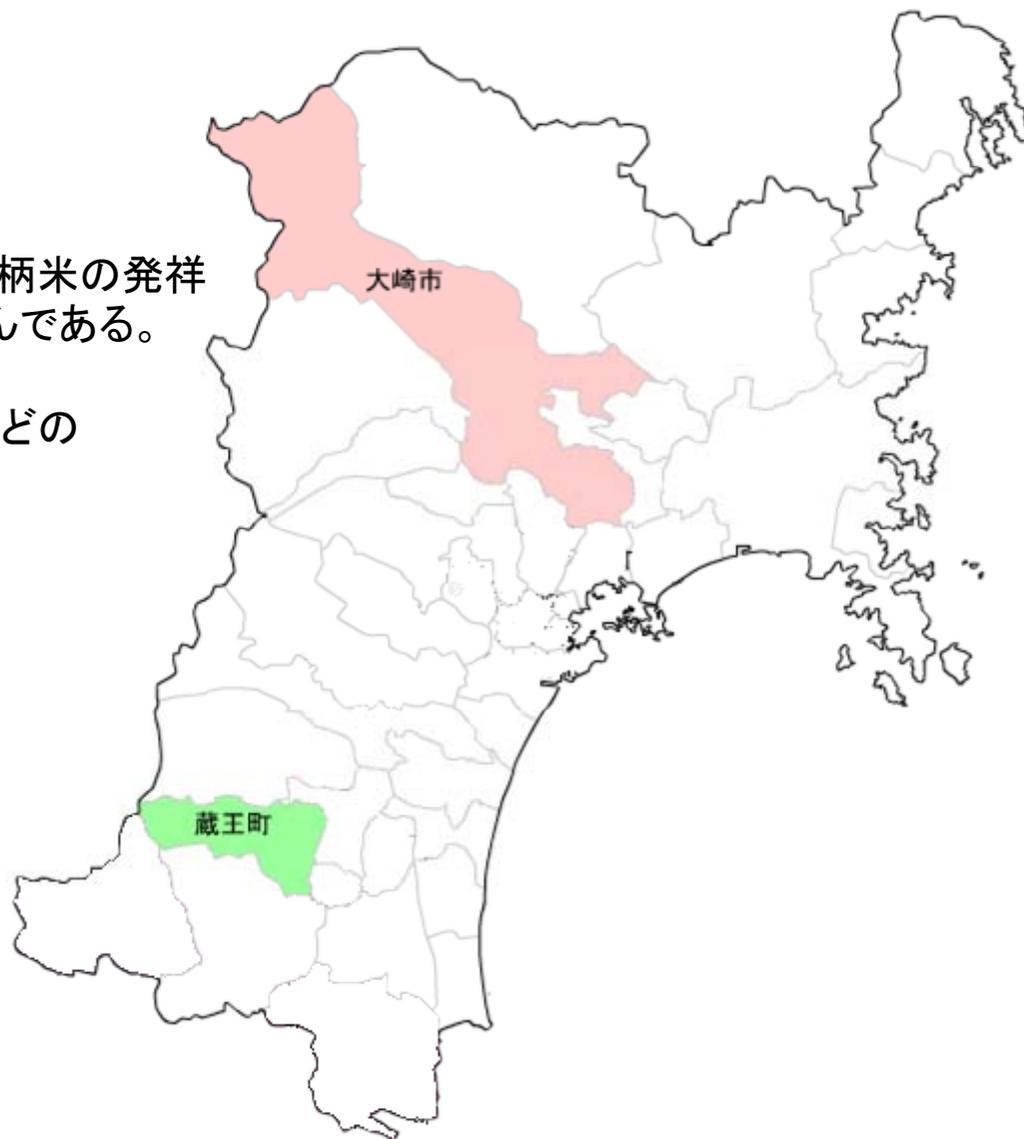
鳴子温泉郷などの温泉や伝統工芸品などの観光資源がある。

宮城県刈田郡蔵王町

人口: 13,262人(4,204世帯)

宮城県南西部に位置する。
蔵王連峰の南に位置し、山がちな地形である。

果樹栽培や酪農などの農業と観光が主産業である。



宮城県刈田郡七ヶ宿町

人口: 1,871人(649世帯)

宮城県の最南西部に位置する。
耕地が少なく大部分が山林原野であり、林業、畜産が行われている。

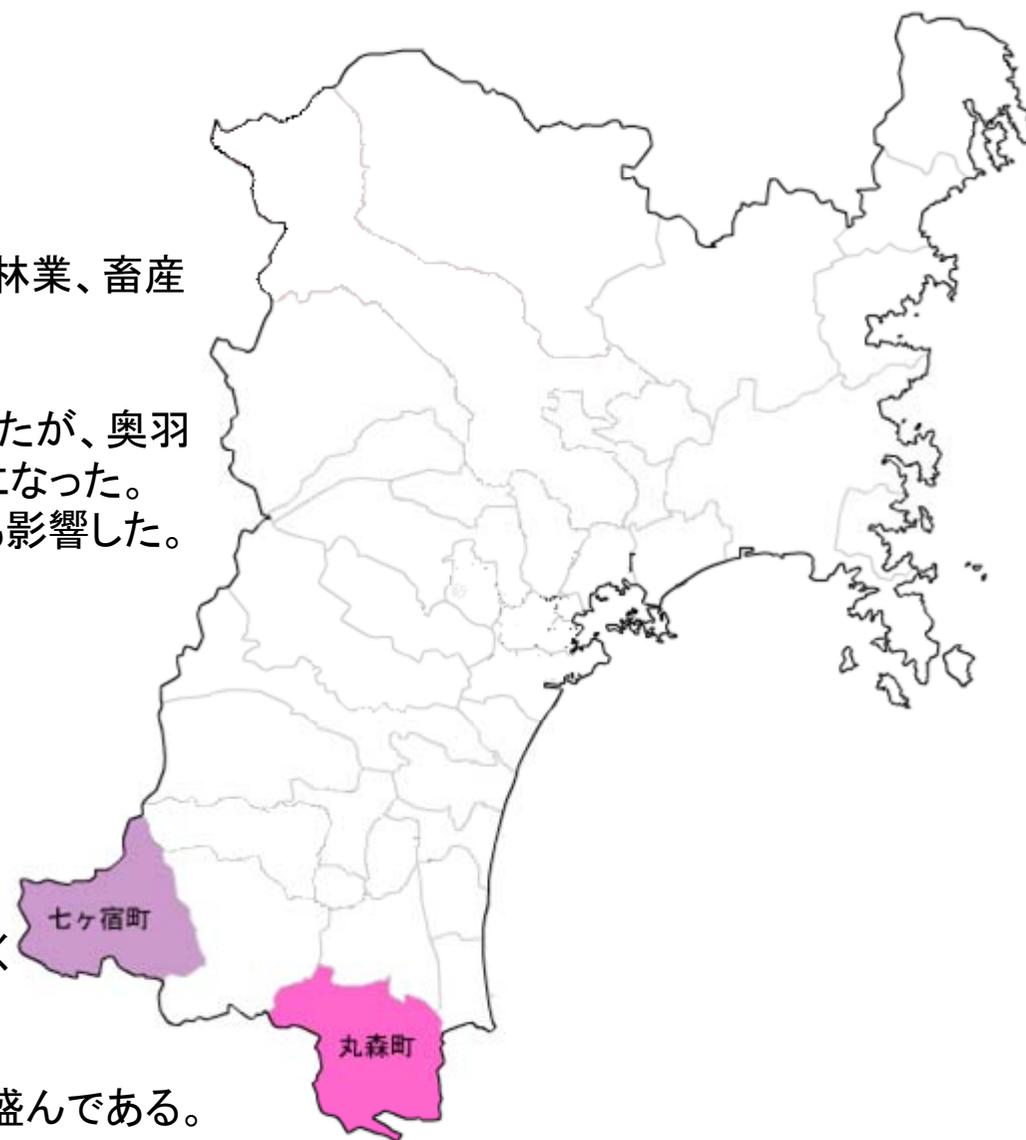
かつては宿場町としてのにぎわいを見せたが、奥羽本線などの開通以後過疎化が進むようになった。
七ヶ宿ダム完成による一部地区の水没も影響した。

宮城県伊具郡丸森町

人口: 16,161人(5,072世帯)

宮城県最南端の福島県境に位置する。
管内を中心を阿武隈川が流れ豊かな自然に恵まれるが、林野率は約7割と多く典型的な中山間地域である。

農林業が主産業で、米作のほか酪農が盛んである。



各市町の高齢化率

高齢化率の全国平均
22.7%

大崎市

人口: 137,892人(46,678世帯)
高齢化率: 約23%

蔵王町

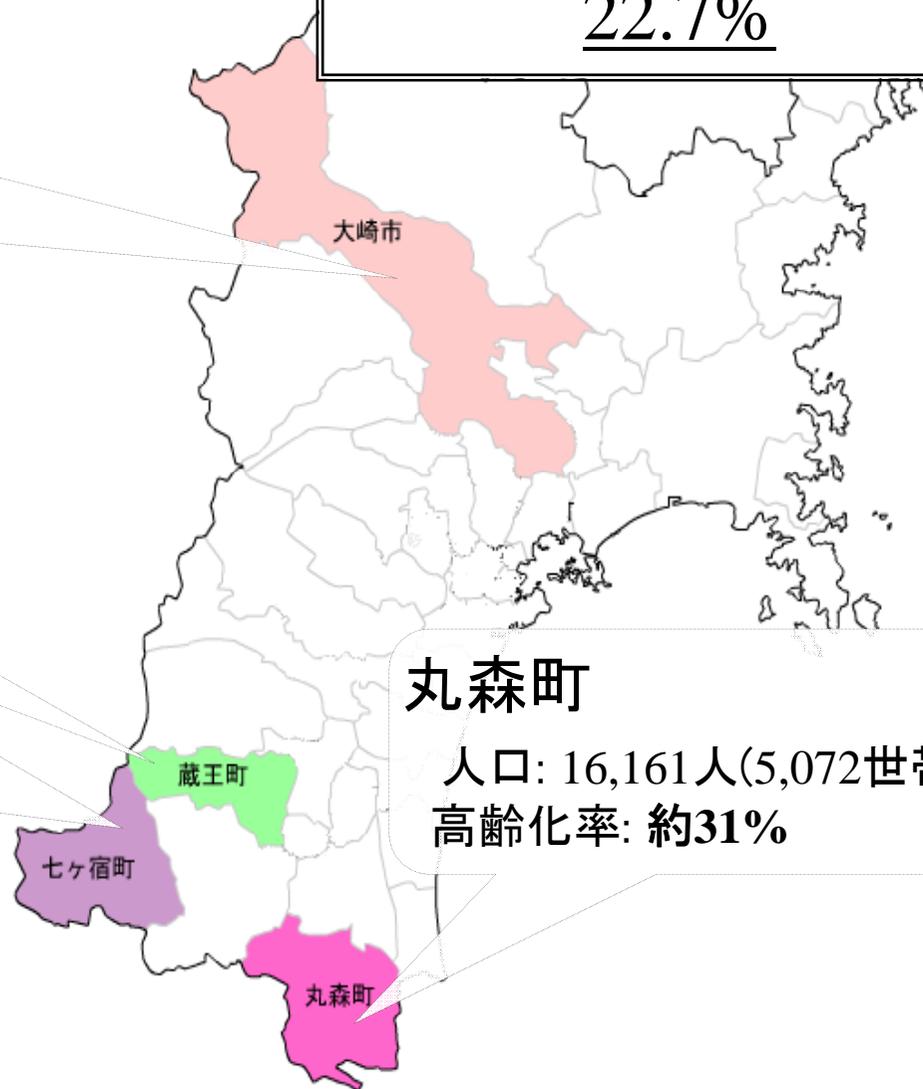
人口: 13,262人(4,204世帯)
高齢化率: 約27%

七ヶ宿町

人口: 1,871人(649世帯)
高齢化率: 約40%

丸森町

人口: 16,161人(5,072世帯)
高齢化率: 約31%



見えてきた地域情報化の課題

- ・ 未整備地域に、かなり共通する問題への理解
- ・ ネットワーク整備の課題
 - 低い人口密度, 集落間の距離 → 高い整備コスト
 - 工事困難箇所（河川, 高速道など）
- ・ ネットワーク利活用の課題
 - 一定の需要が見込めることが、整備の前提条件
 - 地域情報化計画の中に、基盤整備後の計画も必要
 - 情報リテラシーの地域格差：機会が希薄 → 低い要求
 - 高い高齢化率：世代間デジタルデバイドの影響も加速
 - 整備に見合った利活用拡大・需要喚起の継続的方策が必要

当面および今後の取組み

- ・ **地域情報化推進への支援**
 - － 当面は, インフラ整備へのアドバイスから
 - ・ 「インフラ整備→利活用」の順序
 - ・ デジタルデバイド地域の実態の理解
 - ・ アドバイスの積み重ねによるJPNICへの信頼感の醸成
 - － 今後徐々に, 利活用の方策の提言へ
 - ・ 利活用技術の情報提供
 - ・ 地域情報化計画の策定への参画・支援も考えていきたい
 - ・ 厚みのあるインターネット基盤整備事業へ